導きの不思議

シリーズ・パウロ　第34回

使徒言行録 21～26章

エルサレムへ

- 三度目の宣教旅行の後半，パウロはエルサレムで何かが起こることを予感していた
  - ミレトスでエフェソの長老たちに告別説教をした
- ティルスでも信徒たちにエルサレムに上らないよう懇願された＜21:1-6＞
- カイサリアではエルサレムで縛られ異邦人に引き渡される，と預言された＜21:8-14＞
  - しかしパウロは，「主イエスの名のためならば、エルサレムで縛られることばかりか死ぬことさえも、わたしは覚悟しているのです。」と明言した

エルサレムで

- エルサレム教会で忠告を受ける＜21:17-26＞
  - ヤコブ（イエスの兄弟）らエルサレム教会の長老たちから，パウロについて良くない噂が立っているので，身の潔白を証明するために，神殿で身を清めるよう勧められる
- 神殿で捕らえられる＜21:27-30＞
  - アジア州から来たユダヤ人らによって捕らえられ，神殿から引きずり出される
- 千人隊長によって身柄を拘束される＜31-36＞

最高法院で

- エルサレムでの証＜21:37-22:22＞
  - 兵営に連行される前に話す機会を得たパウロは，キリストに出会って変えられたことなどを語った
- 最高法院で弁明する＜22:30-23:11＞
  - パウロはユダヤ人の最高法院の裁判にかけられるが，「死者の復活」について語ったことで混乱した
  - 兵営で主が「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証ししたように、ローマでも証しをしなければならない。」（11）と語りかけられた。

カイサリアで

- パウロ暗殺計画＜23:12-23:35＞
  - 40人以上のユダヤ人がパウロを殺す計画を立てていることが分かり，カイサリアへ護送された
- 総督フェリクスの前で＜24:1-23＞
  - 大祭司アナニアと長老たちがカイサリアに下ってきてパウロを訴えたが，罪は認められなかった
  - 「この男は疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者」(5)
  - フェリクスに何度もキリスト・イエスの話をし，その後2年間監禁された

ローマ皇帝に上訴する

- 新総督フェストゥスが着任する＜25:1-12＞
  - フェストゥスの命により，再び祭司長らがカイサリアに来てパウロを訴えた
  - エルサレムで裁判をやり直すかというフェストゥスの提案に，パウロはローマ皇帝に上訴すると答えた
- フェストゥスとアグリッパの前で＜25:13-26:32＞
  - フェストゥスとユダヤの王であったアグリッパ2世の前で，パウロは証しし，アグリッパに信仰を勧めた
  - アグリッパは上訴しなければ釈放されたと言った

広がった証のチャンス

- エルサレムの住民
- 千人隊長とローマ兵
- 最高法院
- 総督フェリクス
- 新総督フェストゥス
- アグリッパ王

導きの不思議

- 良かれと思ってやったことが…
- 騒動になったことで…
- ローマ帝国の市民であったので…
- ファリサイ派であったことが…
- 命を狙われたことで…
- 正しいことを主張したことで…